

# 文學帖 第七号

名古屋高等学校

# ユニコーン

愛知県立安城高等学校

今回、僕たちは「大衆の中の孤独」というテーマ小説を始め、ショート、名古屋高校文学部ならではの俳句をテーマとした企画、小説家との対談などを盛り込み、過去と比べても大変ボリュームのある部誌になりました。

特にテーマ小説では「大衆の中の孤独」という、とても身近なテーマにし文学部員それぞれが力を入れて取り組みました。

また表紙も大衆の孤独のイメージに沿ったものとし、とてもインパクトのある作品に仕上がりました。

「読んでいる人が面白いと言ってくれるような、そんな部誌にしたい。」

そのような部誌を目指して今後も部誌製作に取り組み、執筆活動にこれからも励んでいきたいと思っています。

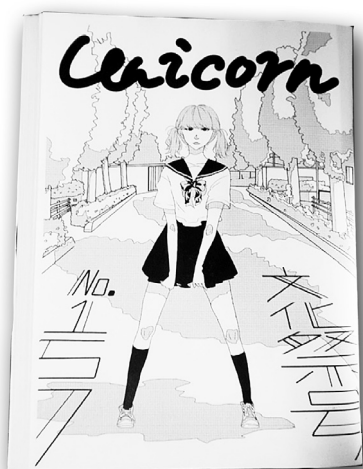
(二年 宮地 雄也)



ユニコーンは、私たち安城高校の文芸誌です。創刊は、一九八六年（昭和六十一年）で、今年で三十年を迎えます。年六回の発行で、文化祭の時には、創刊号から全てのユニコーンを展示し、卒業生の先輩たちにもみてもらっています。

日頃は、小説・詩・短歌・俳句・イラストと自分の好きな分野で挑戦していますが、今年の文化祭号（一五七号）は、「安城高校俳句歳時記」と題し、安城高校独自の歳時記を作り上げました。全国大会で入選した俳句を掲載しています。また、今年には、戦後七十年ということもあり、「平和を考える」と題し、部員五十四名で平和の俳句を作り続け、中日新聞「平和の俳句」の一面に三名の生徒が掲載されています。

(二年 神谷 萌歌)



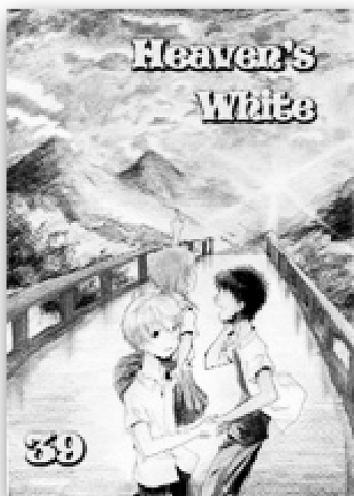
## Heaven's White 39

愛知県立天白高等学校

私たち天白高校文芸部は、毎月決めたテーマに沿った作品を創る「お題創作」の文集とともに、部誌を年に二回、夏と冬に発行しています。今年度は、生誕三百年の蕪村にならって、文字作品だけでなく、文字と絵で表現する新しい文芸を意識して部誌を作りました。地元の方々と交流して、天白を舞台にする作品も特集しました。

清里合宿で生まれた作品、お題創作、まんが甲子園、アートフェスタ、ビブリオバトルなど、私たちの半年間の活動がわかるように、フォト短歌やゲームブックなどといった新興の文芸に挑戦しながら、一冊の部誌に全てを詰め込みました。インターネット展開している電子ブック版の部誌も、三年分付録のDVDに収録しています。

(二年 片桐 将吾)



## Pinnacle

愛知県立一宮高等学校

一宮高校文芸部は、昭和から続く伝統ある部活です。週に一回、毎定期考査後の部誌の発行に向けて、小説やイラストの制作活動をしています。現在、四名で活動しているため、制作活動や印刷、製本はとても大変な作業です。しかし、部員一人ひとりが心を込めて制作し、思いの詰まった部誌をお届けできるよう心がけています。

今年の文化祭では、たくさんの人に部誌を読んでもらうために、文芸部の活動内容を知っていただきたいという願いを込めて、普段の部誌よりボリュームのある「pinnacle文化祭特別号」を発行しました。部員が、小説の設定、主人公、短いフレーズを提案した紙をそれぞれシャッフルし、引いた紙に沿って小説を書くという「シャッフル企画」、さらに、部員のペンネームや趣味、好きな本などを書いた個性豊かな「自己紹介企画」等を行いました。文化祭当日は多くの人に手に取って読んでいただけただけで、とても嬉しく思っています。



これからも、一宮高校の生徒にとって身近な存在であり続け、たくさんの人に愛される部誌を発行できるように努めていきたいと思えます。

(二年 吉野 文菜)

## 青雲

愛知県立岡崎北高等学校

岡崎北高校文芸部は、年四回発行される「十六夜」と、文化祭で販売される「青雲」の二種類の部誌を作成しています。

部員は総勢十四名で、各々が自分の世界観を持って創作活動をしています。締め切り前に必ず設けられている仮締切では、誤字脱字はもちろん物語性や展開まで言及し、お互い刺激しあいながらより良い作品作りを行っています。

これからも人を物語に引き込むようなものを作っていきたいと思っています。

(二年 成瀬 由衣)



## 四季桜

愛知県立加茂丘高等学校

加茂丘高校文芸部では、文化祭と卒業式に合わせて年二回発行する「四季桜」と二か月ごとに「テーマ」を決め、部活動内で発行する「月刊誌」を作製しています。

部員は、三年生五名、二年生六名、一年生十二名の二十三名です。一年生十二名のうち三名が男子部員です。今まで男子部員が入部することが少なかったのもうれしいです。今まで以上に作品のバリエーションが広がりました。

今年度は文芸部として初めての絵本制作に取り組んでいます。目的は地元「藤岡」の魅力を藤岡地域パスを通して広めるためです。シナリオもそれに合わせて部員みんなで考え、一つにまとめていきました。この調子でみんなの力を合わせて、期限までに絶対完成させたいと思います。

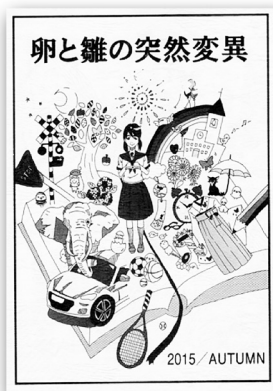
この機に部員の絆も深まると思います。さらに活気ある部活動を目指し日々努力していきたいと思っています。

(三年 田宮 紗希)



## 卵と雛の突然変異

愛知県立国府高等学校



国府高校文芸部は、高校文化祭時の発表を含めて、年二回の部誌『卵と雛の突然変異』を発行しています。更に隔月発行の『エッグスプレイ』というフリーペーパーで作品発表をしています。

毎週、リレー小説や三百字小説などを書いて部員間で見せ合い、様々な取り組みをして、成長できるように努力しています。

そんな部員たちの、多くの努力の結果として完成した部誌『卵と雛の突然変異』は、県下屈指のクオリティに仕上がっています。今年度の部誌の特徴は、多彩なジャンルに挑戦したこと。随筆、自伝、歴史ファンタジー、SF、ホラー小説、部員全員で書き上げたリレー小説等です。また、私達文芸部の初の試みとして、同じテーマについて部員全員で小説を書いてみました。今年度は『りんご』『あお』のテーマです。部員の中には、新聞社主催のコンクール等で優秀賞を受賞している部員もいます。

製本以外の作業は、全て部員だけで行っています。部誌の表紙の絵も文芸部員の作品です。

今後も様々なジャンルに、新しい試みとして挑戦を続けていきたいと思っています。

(二年 尾藤 早紀)

## 文芸幸田

愛知県立幸田高等学校

幸田高校文芸部は毎年俳句甲子園全国大会出場に向けて俳句を中心に取り組み、その他のコンクール等にも応募しています。

今回の『文芸幸田二十四号』は、テーマ詠を行っています。テーマは「色」です。各部員が与えられた色をテーマに俳句と短歌を創作しました。また、今年は俳句甲子園の全国大会に出場できなかった分、短歌道場やアートフェスタに力を入れました。

今回は俳句・短歌のみですが、それぞれの感性が丸裸になった作品が詰まった部誌になったと思います。

(二年 都築 未央)





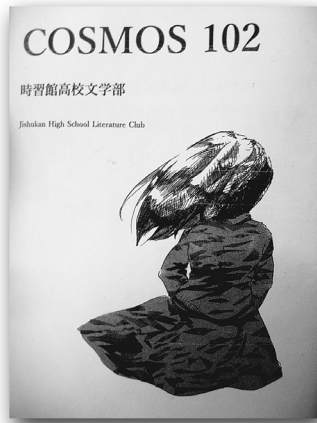
# COSMOS

愛知県立時習館高等学校

時習館高校文学部では、春と夏の年に二回、部誌である『COSMOS』を発行しています。創刊から五十年以上の歴史を持ち、昨年の春には遂に百号を迎えました。

春は新入生と卒業生用で、印刷から紙組み、製本までのすべての作業を部員自らの手で行い、配布します。夏は業者の方に製本の作業を依頼し、文化祭で生徒及び一般の方へ向けて販売します。

また、部誌を発行した後は、部員がイラストを含むすべての作品について意見を出し合う批評会を開きます。感想や良い点だけでなく、改善点についても細かく指摘するので、自分の作品について知ることができます。他の部員の作品についての批評を聞いたり発言したりすることで、創造意欲を向上させ、視野が広がります。そして批評会の内容はノートに記録し、今後に生かすようにしています。



時習館高校文学部では、半世紀以上の伝統を受け継ぎ、新しいことにも挑戦していきながら、より良い作品を創り出していけるよう日々精進していきたいと思います。

(二年 嶋貫 有紗)

# イナカプレス

愛知県立成章高等学校

成章高等学校新聞文芸部では年に一回、「成章祭」と呼ばれる大きな九月の行事に部誌「イナカプレス」を発行し、生徒及び一般の方へ配布しています。

この部誌は、部員全員が一つの作品を出し合います。この内容は様々で、多種多様の表現がなされた小説や、表紙などになる装画などを掲載します。

その他の活動としては、年に数回、新聞を発行し、全校生徒に配布しています。年度初めの新聞には新入生向けの情報が充実しており、毎年、新入生から定評を得ています。

今年の九月に三年生が抜けて、一年生二人のみの活動になってしまいました。したが、成章高校の伝統である「文武両道」の伝統を受け継いでいけるように創作活動に取り組んでいきたいと思っています。

(一年 齊藤 遼)



## こんぺいとう 第五号

愛知県立常滑高等学校

先輩たちが立ち上げてくれた文芸同好会は、今年から常滑高校文芸部として活動することになりました。そのため、部員のほとんどが一年生で、高校生活に慣れないまま活動が始まりました。

昨年からはまった、常滑市文化協会の短歌・俳句講師を招いての講習会を受けたり、リレー小説を書いて批評会を行ったり、読書を毎日の課題として活動してきました。夏休みにはアートフェスタに実行委員として参加し、他校との交流ができたことはとても思い出に残っています。

今回の部誌は、部としては初めての部誌なので、皆で、どんな部誌にするかを話し合いながら作成しました。小説、俳句、短歌、川柳を前年より倍以上ボリュームアップし、新たにエッセイを書きました。また、特集ページを設け、部員が厳選した恋愛小説、漫画、曲などを紹介しました。

作品の入力、校正、印刷、製本、するべきことがたくさんあり、発行までの大変さを感じましたが、皆で協力して文集「こんぺいとう」第五号を発行することができました。



愛知県立常滑高等学校文芸部

これからも、部員の個性が生かせるよう、さまざまなジャンルに挑戦し、より質の高い部誌を作り上げられるよう努力していきたいです。

(一年 須藤 葵)

## 百花繚乱

愛知県立豊田南高等学校

私たち、豊田南高校文芸部は週二回活動をし、年三回部誌を発行しています。部員全員で協力し合い、一から手作業で部誌を製作しています。

部誌には、小説、詩、イラストが載せてあり、それぞれ得意な分野を生かした個性ある作品ばかりです。現在の部員はイラストを描く人が多いので、イラストだけを載せた部誌もつくっています。

これからも楽しく活動していきたいながら、より魅力的な作品を創り出せるよう努めていきたいと思えます。

(二年 村松 彩実)



# RPGの世界で植物を育てるのは 間違っているだろうか？

愛知県立豊橋東高等学校

私たち豊橋東高校文学部では、年に自己紹介冊子、文化祭冊子、春冊子の計三冊の部誌を発行しています。冊子を発行するにあたって毎回お題を設けており、同じテーマでも部員各々の個性が見受けられ、この点が最大の魅力ではないかと思えます。今年の冊子のお題は「RPG」と「植物」で、冊子のタイトルはそれに因んだものです。内容は、小説・イラストを中心としており、じっくり作品と向き合いたい人、軽く目を通したい人、どちらにも楽しんでいただける仕上がりになっています。

部員は現在一年生一名、二年生四名の計五名で、火曜日・木曜日の週二回活動しています。ほとんどの部員が兼部をしております、なおかつ人数もいないので、部員全員が集まって活動するというのは難しいですが、集まった部員同士で意見を交換し合い、お互いを高めあうことに努めています。また、「ゲスト」として部員以外の人にも作品を寄稿してもらったりなど、部活そのものの活性化も視野に入れています。

これからも、新しい事に挑戦し、部員全員でより魅力的な部誌を作り上げていきたいと思っています。

(二年 成瀬なぎさ)



# the stories of signs

南山高等学校 女子部

南山高等学校女子部文芸部は、学校が中高一貫である特徴を生かし、中学生と高校生が共に週二回、活動しています。普段の活動では、描写の練習や一行ずつ書いて次の人に回していく「一行交換」、あらかじめ決められた3つのものを小説にからめる「三題」など、文章力の向上に努めています。部誌は年二回、春部誌と秋部誌を発行しています。主な行事は文化祭で、今年度は書店についての発表と部誌販売を行いました。

the stories of signs は春部誌として発行しました。春部誌は、毎年、テーマを決めて書いています。今年のテーマは黄道十二星座です。部員がちょうど十二人だったことからこのテーマになりました。個性豊かな十二の作品で構成されています。

(二年 河野 紗英)



# 山 紫

愛知県立西尾東高等学校



私たち西尾東高校文芸部では、年三回「山紫」という部誌を発行しています。内容は、散文、イラスト、漫画、俳句など様々です。今年の文化祭号は、手作り製本だった部誌を、初めて本格的な製本で仕上げました。俳句部門のページを増やし、今年出場して準優勝した、俳句甲子園名古屋地区大会の結果や感想、今まで作ってきた部員達の俳句を紹介しています。さらに、先日校内で開催した読書会の様子も掲載。個人の創作以外にも、力を入れた内容となっています。

(二年 尾崎 ルナ)

# Hydrangea

愛知県立半田商業高等学校

半田商業高校文芸部は、毎週二回、月曜日と金曜日に活動を行っています。

活動日には、俳句、詩、エッセイ、三百字小説、付け句など、さまざまなジャンルがありますが、全員が同じ課題に向かって取り組んでいます。活動成果ともいえる部誌は、年に一回文化祭の時に発行します。

部誌は、一から編集・製本まで自分たちの手で作ります。今年度は、部員の人数が少なくなってしまう、作品の数も思うように増やせませんでした。しかし、一つ一つ内容の濃い作品を作り上げることができました。

部誌のタイトルでもある「Hydrangea」は和訳すると「紫陽花<sup>あじさい</sup>」です。

あじさいとは、土壌、空気、開花日数によって色が変化します。

私たちは、あじさいのように色のある良い作品を作れるように、高い目標を持ち努力していきます。  
(二年 大岩 絢莉)





## 夢幻

愛知県立碧南高等学校



私たち文芸同好会は、火曜・水曜・金曜の週三回、活動しています。部員は十八人。主な活動内容は、小説・詩・イラストの作品作りや、近況報告を毎回行い、学年関係なく交流を深めています。先輩・後輩の仲も

とても良く、和やかな雰囲気です。年に二回、九月の碧高祭・三月の卒業式の際に、部誌を発行しています。皆で決めたテーマに沿ったものや、各部長が思い思いに書いた、小説・詩・イラストを載せています。原稿入力・表紙絵・印刷・製本作業の全てを、一から部員全員で協力して製作していきます。大変な作業ですが、皆で励まし合いながら作った分、完成した時はとても嬉しい気持ちになります。これらの作品が多くの人に手に渡り、読んでもらえる事に、遣り甲斐を感じています。

(二年 西岡 紅映)

## 白い壁

愛知県立明和高等学校

私たち明和高校文芸部では、年三回の部誌、『白い壁』の発行を行っています。他にも、ひらがな二文字をお題として各自で作品を書き上げる、『ねっさんズ。』や、美術部、漫画研究部と共同で発行する合同誌、『GORDON氏』の発行も行っています。

また、部誌だけでなく、行事での作品展示にも取り組んでいます。現在二年生四人、一年生二人で活動しています。他校と比べると若干人数は少なめですが、それぞれが個性を遺憾なく発揮して活動しています。もっと多くの方の手に取って頂ける作品になるよう、部員一同精進していききたいと思います。

(二年 岡村 優吏)

